

第18回 原爆回顧展

展示期間 2022年7月26日(火)～29日(金) 文京シビックセンター 1階 展示室2
展示内容 原爆の凶 「幽霊」「虹」(原寸大レプリカ)
特別企画 核兵器禁止条約・核兵器の非人道性に関する国際会議等
丸木美術館及び原爆・戦争資料の放映(WEBSITE・インターネット)
「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」展示、他関連図書、DVD等

1945年8月6日と8月9日、広島と長崎に投下された二発の原子爆弾は15万人の死傷者を出し、二つの都市を全滅させました。原爆投下後の広島の様状を目の当たりにした丸木位里、丸木俊夫妻はアメリカ占領下で殆ど原爆の報道が許されず、写真も数枚しか残されていない状況のなかで、自分たちの見た地獄のような光景を絵にして世界に訴えようと決意しました。今回展示する作品は第一部「幽霊」第四部「虹」の2作品です。

第一部 「幽霊」

それは幽霊の行列。一瞬にして着物は燃え落ち、手や顔や胸はふくれ、紫色の水ぶくれはやがて破れて、皮膚はぼろのようにたれさがった。手をなかばあげてそれは幽霊の行列。破れた皮を引きながら力つきて人々は倒れ、重なりあってうめき、死んでいったのであります。爆心地帯の地上の温度は6千度、爆心近くの石段に人の影が焼きついています。



第四部 「虹」

全裸のからだに軍靴と剣だけをつけた兵隊。手を折り、足をつぶした若い兵隊。病兵は、破れた皮膚に毛布をかぶって逃げまどいました。音ひとつない、シーンと水を打ったような時間。気の狂った兵隊が天をさして、「飛行機だ、B29だ」と叫びつづける。どこにも飛行機の影はないのです。傷ついた馬が、狂った馬たちがあばれまわるのでした。



「原爆の凶」展はこれまで(株)リコー社会貢献クラブ、(株)オラクル有志の会ボランティア基金、文京区社会福祉協議会、文京区建設業協会、東京平和運動センター、東京清掃労組、文京区職労、東京土建文京支部、東京福祉・まちづくりネット、女性会議文京支部などの団体・企業よりご協賛頂いています。